

# 地域の食や農業を通じて持続可能な社会を 高田世界館で「たねまきマルシェ」

地域の食や農業を通じて持続可能な社会を作ることをめざした「たねまきマルシェ（市場）」が1日、高田世界館及び同館前広場で開催されました。

世界館前広場では10数店のテントが並び、野菜やいろいろな食べ物などが販売されていました。市役所の職員さんも上越野菜の宣伝をしていました。親子連れが多かったですね。

館内では映画「幸せの経済学」の上映とパネルディスカッションが行われました。映画は身近な地域で経済を循環させることの大切さを訴えたもの、新型コロナウイルスの問題が起きて、これからの地域、暮らしを考えるヒント

がいくつもありました。

パネルディスカッションは天明伸浩さんの司会で進行、関原正徳さん、堀口典幹さん、峯村正文さんが発言、映画の感想、なぜUターンしたか、これから何をしたいか、いいかなどを会場の参加者も交えて語り合いました。

パネルのみなさんからは、「自立という言葉が印象に残った。お互い依存し合って自立するところが気に入っている。昔ながらの助け合いが良い。自分のところでは作業が終わった後、宴をやっているのが楽しい。来年もやりたい」（関原さん）、「お金って何だ



【センブリ】（再録）リンドウ科の越年草です。漢字で「干振」と書きます。煎じて干回振りだしてもまだ苦いといわれるほど苦味のある薬草です。ゲンノショウコ、ドクダミと並んで日本の三大民間薬と呼ばれています。わが家でも昔は胃腸薬として使っていました。草丈は10センチ～20センチ。いま、小さな白い花を咲かせています。写真は11月3日午前、吉川区小苗代にて撮影しました。



「公の施設の再配置計画」について意見交換会  
地域協議会有志のみなさんなどが3日、三和区コミュニティプラザで「公の施設の再配置計画」についての意見交換会を開催しました。  
会では柿崎、板倉、三和、大島など7つの区の地域協議会委員が地域協議会での取組を報告し、今後の対応をめぐって意見を交わしました。  
その中で、「地域協議会としても関係地域住民の声を聞くための会を開くことになっている」「いまだ検討中のも

ろ。農業をやっているのは、美味しいものを食べてもらいたいのと、荒れたところを活性化させたいから。畑をやる人が減っている。小さい畑こそ、みんなが取り組める」（堀口さん）、「地域を持続させるには、お互い協力する人がいること、農と食を結び」と、地域の人がどういう食べ方をするかを知ることが大事。上越は海あり、山あり、そして発酵の町だ」（峯村さん）などの発言がありました。



のもあるが、時間をかけてもよく現地を見て、十分話し合って結論を出していきたい」などの声が出ていました。  
12月にも再配置計画（案）が市から市議会に示される可能性が大きいですが、急ぎ過ぎることなく、関係地域住民や団体の声をしっかり聞いて対応してほしいと思います。

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1984 2020.11.8  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い 第六三一回 一番小さな満月

先週の木曜日、月齢が一・二日頃の月の写真を撮って「満月の翌日に……」と発信したところ、市内でお店をやっているTさんから、「二〇二〇年一番小さく見える満月みたいなので、味わい深く眺めます」というコメントを寄せいただきました。

Tさんのコメントを読んだ私は、「一番小さく見える満月」という言葉が気になり、すぐ調べました。その結果、この満月というのは地球から最も遠い距離にあり、その日が一〇月三十一日であるということがわかりました。そして、その満月の時間は二・三時四九分であることがわかった。

これをもとに私は、「地球と月の距離は変化するんですね。三十一日二・三時四九分、楽しみます」と返信しました。

正直言って、私は月の出などで月が大きくなること、満月時に見える月の大きさが変化すること、その日はカボチャで賑やかな祭りをやる、あのハロウィンとも四六年ぶりに重なることも知りませんでした。

注目したのは満月時の地球との距離です。満月の瞬間の距離は約四〇万六千キロメートルです。上越市と東京間は直線で約二〇七キロメートルですから、上越市と東京間を九八〇回往復するくらいの長さになります。近いようで遠いものですね。

いったん、こういふことを知ると、じつとしていられないのが私の性分です。次の日にはTさんのお店に行き、満月への想いなどを聞きました。

一番印象に残ったことは、Tさんのお母さんについての話です。まだ七〇代半ばくらいだと思うのですが、Tさんはお母さん

に断捨離をするよう求めていること、実際に、Tさんのお母さんまで動員して、不要ものを整理しているということでした。月のことから話し始めたのですが、自然と人生の長さや生き方を考えることにながっていききました。

さて「一番小さく見える満月」の当日です。午前は連れ合いと共に大島区の飯田邸へ行き、美味しい新そばを食べてきました。外で待っている時、カヤぶき屋根の上空が抜けるような青空となっていました。「これなら今夜は満月を楽しめる」、そう思いました。

午後は介護施設に入所中の母と面会し、その後、高田のミュゼ雪小町で開催されていた「アール・ブリュット展」を観て楽しませてもらいました。

その帰り道です、その日の月を最初に見たのは、夕方の一七時過ぎでした。横曽根から東中島へと車を走らせている時、右奥の安塚あたりの山からまん丸の月が見えました。それも普段見る月よりもひと回り大きく、しかももつとりのするほど美しい黄色の月でした。

そして、待ちに待った「一番小さく見える満月」、二・三時四九分の月です。私は冷えた外に出て、軽乗用車の屋根の端にカメラを置き、月を撮りました。月の色は真っ白でした。一七時頃に黄色の大きな月を見ていたので、さほど美しいとは思いませんでしたが、「これが最小満月か」と思うと感慨深いものがありました。

細い弓のような月が徐々に大きくなって三日目、半月になり、やがては満月になる。こうした月の変化はずっと見てきました。もちろんその逆も。でも、月と地球の距離によって見える月の大きさが変化することを意識したのは今回が初めてです。「一番小さく見える満月」を見て、ちょっと嬉し気分になりました。

## 今年も力作ぞろい…アール・ブリュット展



アール・ブリュットは「磨かれていない(加工されていない)生(き)のままの」という意味のフランス語で、独自の発想と方法で制作した作品のことをいいます。

上越地域では今年もアール・ブリュット展がミュゼ雪小町で開催されました。全体として、今年も力作ぞろいでしたね。

私は引日、さをり織りの坂井亮円さんから案内してもらい、作品を鑑賞させていただきました。

注目した作品の一つは、佐藤葉月さんの作品(写真)です。佐藤さんとは昨年2度ほど会っているだけですが、マスク姿の私の顔を見てすぐおわかってくれました。昨年は青の世界に引き込まれましたが、今回はモノクロの世界です。作品ひとつひとつ、すべてデザインが違ってきます。どこまで広がるのでしょうか。また、「ナワバリ争い」でも狭い地球の中などといった彼女のコメントも大好きです。

アール・ブリュット展は今年で3回目。来年も楽しみにしています。



日本共産党議員団主催の市政報告会・意見交換会を20日午後6時半から直江津学びの交流館多目的ホールAで行います。ぜひお出かけください。

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月28日(水)	11月4日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.057
新井消防署	0.047	0.053
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.053	0.057
名立分遣所	0.053	0.057
高士分遣所	0.050	0.063

# 春よ来い 第六三一回 一番小さな満月

先週の木曜日、月齢が一・二日頃の月の写真を撮って「満月の翌日」……と発信したところ、市内でお店をやっているTさんから、「二〇二〇年一番小さく見える満月みたいなので、味わい深く眺めます」というコメントを寄せいただきました。

Tさんのコメントを読んだ私は、「一番小さく見える満月」という言葉が気になり、すぐ調べました。その結果、この満月というのは地球から最も遠い距離にあり、その日が一〇月三十一日であるということがわかりました。そして、その満月の時間は二・三時四九分であることがわかった。

これをもとに私は、「地球と月の距離は変化するんですね。三十一日二・三時四九分、楽しみです」と返信しました。

正直言って、私は月の出などで月が大きくなることは知っていましたが、満月時に見える月の大きさが変化するとは思っていませんでした。みんな同じ大きさだと思ひ込んでいたのです。

インターネットで調べたとき、今年の「一番小さく見える満月」は今年の「一番大きく見える月」よりも一四%も小さいこと、その日はカボチャで賑やかな祭りをやる、あのハロウィンとも四六年ぶりに重なることも知りませんでした。

注目したのは満月時の地球との距離です。満月の瞬間の距離は約四〇万六千キロメートルです。上越市と東京間は直線で約二〇七キロメートルですから、上越市と東京間を九八〇回往復するくらいの長さになります。近いようで遠いものですね。

いったん、こういふことを知ると、じつとしていられないのが私の性分です。次の日にはTさんのお店に行き、満月への想いなどを聞きました。

一番印象に残ったことは、Tさんのお母さんについて話です。まだ七〇代半ばくらいだと思うのですが、Tさんはお母さん

に断捨離をするよう求めていること、実際に、Tさんのお母さんまで動員して、不要ものを整理しているということでした。月のことから話し始めたのですが、自然と人生の長さや生き方を考えることにながっていききました。

さて「一番小さく見える満月」の当日です。午前は連れ合いと共に大島区の飯田邸へ行き、美味しい新そばを食べてきました。外で待っている時、カヤぶき屋根の上空が抜けるような青空となっていました。「これなら今夜は満月を楽しめる」、そう思いました。

午後は介護施設に入所中の母と面会し、その後、高田のミュゼ雪小町で開催されていた「アール・ブリュット展」を観て楽しませてもらいました。

その帰り道です、その日の月を最初に見たのは、夕方の一七時過ぎでした。横曽根から東中島へと車を走らせている時、右奥の安塚あたりの山からまん丸の月が見えまじく、しかももつとりのするほど美しい黄色の月でした。

そして、待ちに待った「一番小さく見える満月」、二・三時四九分の月です。私は冷えた外に出て、軽乗用車の屋根の端にカメラを置き、月を撮りました。月の色は真っ白でした。一七時頃に黄色の大きな月を見ていたので、さほど美しいとは思いませんでしたが、「これが最小満月か」と思うと感慨深いものがありました。

細い弓のような月が徐々に大きくなって三日目、半月になり、やがては満月になる。こうした月の変化はずっと見てきました。もちろんその逆も。でも、月と地球の距離によって見える月の大きさが変化することを意識したのは今回が初めてです。「一番小さく見える満月」を見て、ちょっと嬉し気分になりました。

## 大島区大島で出張地域協議会・意見交換会



大島区の出張地域協議会・意見交換会が10月30日、大島生活改善センターで行われました。

地域協議会の会議の中では、大島区の主な施設の経営状況について昨年度の決算に基づいて報告があり、「地域住民にもインターネットだけでなく、こうした報告

ができないか」などの発言がありました。

協議会や大島地区住民との意見交換会のなかで注目したのは情報伝達です。火災情報が間違っ

て伝えられて混乱が起きたこと、総合事務所がクマ出没情報を流すときに放送に乱れがあったことなどが問題になりました。「集落の柿の木を調べたら14本にクマの引っかけ傷があった」と報告する人もありました。クマ情報は正確に、かつ速やかに伝える必要がありますね。



### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月28日(水)	11月4日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.057
新井消防署	0.047	0.053
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.053	0.057
名立分遣所	0.053	0.057
高士分遣所	0.050	0.063

日本共産党議員団主催の市政報告会・意見交換会を20日午後6時半から直江津学びの交流館多目的ホールAで行います。ぜひお出かけください。